

2026年 第63号
 とことん面倒見のよい学校
 中央カレッジグループ

学園新聞

中央カレッジグループ学園新聞編集委員会 <http://www.chuo.ac.jp>
 〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-1 TEL.027-253-1105(代) FAX.027-253-1124



中央情報経理専門学校
 群馬法科ビジネス専門学校
 中央医療歯科専門学校太田校
 専門学校 中央農業大学校
 専門学校 中央情報大学校
 高崎ビューティモード専門学校
 中央動物看護専門学校
 中央医療歯科専門学校高崎校
 中央スポーツ医療専門学校
 中央高等専修学校
 (クラーク記念国際高校連携校)
 CRI 中央外語学院
 資格の学校 TAC群馬校

宇宙産業の人材育成 産学官のプロジェクトが始動

中央情報大学校が統括

拡大する宇宙産業（スペーステック）の人材を育成するため、中央情報大学校を中核とした産学官連携によるプロジェクトが始動しました。文部科学省の委託を受け、全国の専門学校で展開できる教育モデルの構築を目指します。

3カ年で教育プログラム

中島慎太郎・有坂中央学園理事長を委員長とする事業実施委員会を設置し、宇宙関連企業や自治体、高校、大学、高等専門学校、県外専門学校、研究機関、新聞社などが参画。中央情報大学校が全体を統括し、2025年度から3カ年で教育プログラムを開発します。

宇宙産業は近年、民間企業の参入拡大や衛星データ利活用の進展により、製造、設計、解析、IT、企画、プロ

ジェクト管理など幅広い分野で人材需要が高まっており、地域に根ざした職業教育機関の役割が一層重要になっています。

宇宙関連産業で求められる多様な職種・スキルに対応できるよう、実践的かつ職業直結型のカリキュラムを整備し、製造・打上げ分野や運用・利用分野で活躍できるスペーステック人材の育成を図ります。プログラムは2年間、約1800時間を想定し、企業実習やインターンシップ、高校・高専・大学との接続も視野に入れた内容とします。



事業実施委員会でありさつする中島理事長

すでに事業は動き始めており、事業実施委員会の下に設けた調査研究、教育プログラム開発、普及検証の各小委員会が、宇宙関連企業へのアンケート調査やヒアリング、JAXAへの視察などを通じて人材ニーズの把握を進めています。調査結果を基に、育成すべき人材像を具体化し、カリキュラムのサンプル作成に取り組んでいます。

群馬県は戦前の中島飛行機に代表される航空機産業の歴史を背景に、現在

も航空宇宙関連企業が集積しています。県や関係団体は航空宇宙産業の振興や宇宙教育の推進に取り組んでおり、本事業はこうした地域の動きと連動しながら、若者の地元定着と産業活性化の両立を目指します。

地域の専門学校が宇宙産業人材育成の中核を担う新たな取り組みは、地方から宇宙分野へ人材を送り出す持続的な仕組みづくりにつながるものとして注目されます。

eスポーツで 人間力養成 ルナトーン社と連携

有坂中央学園はLunaTone合同会社（東京都港区、ヒョン・バロCEO、以下ルナトーン社）とeスポーツやゲームを活用した体験型汎用スキル教育・研修プログラムの実装を目的とする包括連携協定を締結しました。2月3日、高崎市の中央情報大学校で中島慎太郎理事長とヒョンCEOが協定書に調印しました。

eスポーツやゲームには、課題解決やチームでの協働、対話、役割分担など、実社会に直結する要素があります。こうした特性を教育設計に取り入れ、コミュニケーション力、主体性、チームワーク、戦略的思考、リーダーシップなどを体験の中で身につけるプログラムを目指します。

教育現場にeスポーツを取り入れる例はありますが、汎用スキル育成とキャリア形成を目的に体系的な教育プログラムを構築する動きは限定的です。

ルナトーン社はデジタルコンテンツを活用した体験型教育・研修を通じ、若者のキャリア開発支援や次世代人材育成に取り組む企業です。国際的なネ



調印した協定書を掲げる中島理事長（右）とヒョンCEO

ットワークを強みとし、国内外の教育機関や企業と連携しながら、汎用的スキルを育成するプログラムを展開しています。

今後は、ルナトーン社が提供する体験型プログラムを同学園の教育環境に導入。学生が実践と振り返りを重ね、新たな教育モデルを創出します。社会で活用できるスキルや主体的に学ぶ姿勢の習得、グローバルな視点を持ったキャリア形成などの効果が期待されます。

調印式で中島理事長は「eスポーツやゲームをツールとして人間力や協働力を高める教育を展開したい」、ヒョンCEOは「群馬から海外で活躍できる人材を育成するお手伝いをしたい」と抱負を語りました。



「人は自己を新たにするために学ぶ」。内村鑑三の言葉は、今、かつてない重みをもって私たちに迫っています。気づけば社会は大きく姿を変え、学びの意味そのものが改めて問い直されています。

理事長に就任して4年目を迎えました。この間、教育の在り方も大きく揺れ動いてきました。AIの普及により、知識や技術は「持つもの」から「更新し続けるもの」へと変わりました。だからこそ今、「リスクリング」という考え方が、現実的な課題として重要性を増しています。

本学園でも、歩みを止めることなく挑戦を続けています。4月には声優分野の新たな学校「VOIST」が開校し、宇宙産業人材育成事業も3

カ年計画の2年目に入りました。さらに、不登校の生徒らに学びの場を提供する通信制の「前橋中央高等学校（仮称）」が来年4月に開校予定です。いずれも、これからの時代に求められる多様な学びのかたちを見据えた取り組みです。

専門学校の役割は、今後さらに大きくなると感じています。変化の激しい社会においては、実践的で高度な職業教育こそが、人の可能性を広げる力になります。時代のニーズに応じて教育を日々アップデートし続けること、それが

「やって・みて・考える」。本学園のモットーは、挑戦の本質を示しています。失敗を恐れず踏み出した一歩が、新しい未来を切り拓きます。

これからも本学園は、変化を前向きに受け止め、挑戦し続ける専門学校グループとして、社会に求められる人材育成に取り組んでまいります。

(学校法人有坂中央学園理事長 中島慎太郎)

高資格たたえ表彰

教育成果も発表

中央カレッジグループの2025年度高資格・教育成果発表会が2月4日、前橋市内で開かれました。日商簿記検定1級など高水準の国家資格試験などに合格した学生251人を表彰したほか、企業との協業で行政機関から表彰を受けるなど高い学習成果を上げた学生7グループの発表が行われました。

表彰式では学生を代表して、日商簿記検定1級や税理士試験2科目などに合格した中央情報経理専門学校経営ビジネス学科2年の戸丸彩音さんらに合格証書が送られました。会場では関係者が学生の努力をたたえ、今後の活躍に期待を寄せました。

教育成果発表では、AIを活用して食品ロス削減につなげる取り組みや、電子問診票の導入によって医療機関の業務がどのように効率化するかを探った調査研究活動などが報告されました。学生たちは実践的な学びを通じて得た成果を分かりやすく紹介し、来場者は熱心に耳を傾けていました。



合格証書を受ける学生



教育成果発表で取り組みを説明する学生



制服姿で交通安全を訴える上田さん

スキーモ上田さん1日署長

秋の交通安全運動で

秋の全国交通安全運動（9月21～30日）に合わせて、スキーモ（スキー登山競技）の国内第一人者で、中央カレッジグループ所属の上田絢加さんが、前橋署と前橋東署の一日警察署長を務めました。

委嘱式は前橋市の大型商業施設、けやきウォーク前橋で行われ、制服姿の上田さんがイベントステージに登壇しました。「うえだあやか」の六つの頭文字に込めた交通安全宣言を披露し、「運転はいつも慎重に」「笑顔で譲り合い、歩行者優先」などと呼びかけ、来場者に交通事故防止への協力を訴えま

した。会場では多くの買い物客や家族連れが足を止め、上田さんの呼びかけに耳を傾けました。式典後は署員や交通安全協会の関係者とともにチラシや啓発グッズを手渡ししながら交通安全を呼びかけました。上田さんはスキーモの国内トップ選手として活躍しており、ミラノ・コルティナ冬季五輪出場を目指して競技に取り組んできました。日本は同種目の出場枠を獲得できず、五輪出場はかないませんでした。その後のW杯などで活躍しています。

有坂中央学園の専門学校の合同卒業式が3月11日に前橋市で、12日に高崎市で相次いで開かれ、合わせて8校689人の卒業生たちがそれぞれの進路へ新たな一歩を踏み出しました。



答辞を述べる学生(前橋)

それぞれの進路へ決意新た

2会場で合同卒業式

前橋、高崎の8校689人

前橋市内にある専門学校5校（中央情報経理専門学校、群馬法科ビジネス専門学校、中央農業大学校、中央動物看護専門学校、中央スポーツ医療専門学校）の合同卒業式が3月11日、前橋市民文化会館で行われました。卒業生286人が出席し、多くの来賓や教職員、保護者らが見守る中、厳粛な雰囲気の中で門出を迎えました。

式では国歌斉唱の後、学業成績優秀者や皆勤者などへの褒賞が授与されました。続いて各校の代表に卒業証書と専門士の称号が授与され、学生たちはこれまでの学びの成果を胸に新たな一歩を踏み出しました。来賓として町田裕之群馬県中部振興局長らが出席し、卒業生の門出を祝いました。

式辞で学校法人有坂中央学園の中島慎太郎理事長は、各学校で学生たちが取り組んできた専門分野の学習や地域活動、国家試験への挑戦などの成果を具体的に紹介しました。そのうえで「AIなどによる高度情報化が進み、変化の激しい予測困難な時代です。ここで学んだことや経験を生かし、自ら考え行動し、社会で必要とされる人材になってほしい」と卒業生を励ました。



式典が終わり、拍手で送り出される卒業生(前橋)

第一印象を磨こう

学生が面接マナー学ぶ

中央情報経理専門学校は12月、就職活動に向けた「身だしなみ・ビジネスマナー実践講座」を同校で開き、紳士服などを扱うコナカから派遣された講師が登場、多くの学生が聴講しました。テーマは「企業から選ばれる人間力を身に着ける」。

講師は「面接は第一印象が重要で、ドアノックからあいさつ、いすの横に立つまでの最初の8秒で決まる」と説明。視覚情報が55%を占めるとし、身だしなみや自然な笑顔、相手の目を見て話す視線の大切さを強調しました。背筋を伸ばし、相手の話に相槌を打つ



実践講座であいさつの基本姿勢を学ぶ学生たち

ことも好印象につながると助言しました。

スーツは黒の無地が基本で、適正な丈やネクタイの結び方も説明。学生は熱心にメモを取りながら、自身の面接をイメージしている様子でした。

巣立ちの春



答辞では5校の卒業生代表5人が壇上に立ち、それぞれが進学を決めた理由や在学中に努力したテーマ、挫折を乗り越えた経験を振り返りました。先生や仲間の励まし、家族への感謝を述べながら、「同じ目標を持つ仲間と一緒に厳しい試験勉強に挑むことができました」「専門学校での体験や学びを通じて、社会人としての心構えを理解することができました」と語り、思い出とともに今後への希望や意欲を力強く表明しました。

褒賞を授与される学生（高崎）



卒業証書を授与される卒業生代表（高崎）

優績賞など褒賞も授与

高崎市にある専門学校3校（中央情報大学校、高崎ビューティモード専門学校、中央医療歯科専門学校高崎校）の合同卒業式が12日、群馬音楽センター（同市）で開かれ、計403人が卒業しました。

式では国歌斉唱の後、優績賞や日本歯科衛生士会長賞、公益財団法人日本理容美容教育センター理事長賞などの褒賞が、計245人に授与されました。

有坂中央学園の中島慎太郎理事長は式辞で、卒業生たちが在学中に取り組んだ学業や課外活動、資格取得への挑戦などを学校ごとに振り返り、「社会で活躍することを目指した職業教育を受ける中で、努力の大切さを知り、人間的にも成長があっ

たと思います。卒業後も初心を忘れず、地域や社会に貢献してほしい」とエールを送りました。

答辞では3校の代表者が壇上に立ち、戸惑いとともに始まった学校生活や、かけがえのない仲間との日々を回想しました。厳しい実習を友人と励まし合って乗り越えたことや、国家試験対策に諦めずに挑んだ経験、うまくいかず自信をなくしたこともあったと振り返りながら、「長いようであっという間の時間でした」「それぞれの道へ力強く歩んでいきます」などと今後への決意を語りました。また、支えてくれた家族への感謝の言葉も述べました。

式の最後には、卒業生たちが会場の拍手に送られながら、ステージ前方から後方の出口へと階段を上がり、晴れやかな表情で会場を後にしました。

前橋で就職ガイダンス 18社が求める人材を説明

中央カレッジグループは11月、前橋市内で学生向けの就職企業ガイダンスを開きました。自動車ディーラーや家電販売チェーン、金融機関など計18社がブースを設け、参加した学生に向けて事業内容や採用方針、仕事の魅力などを紹介しました。

ガイダンスは2日間にわたって行われ、多くの学生が参加しました。会場には企業ごとのブースが並び、学生たちは興味のある企業の説明を順番に聞きながら、業界研究や就職活動に向けた理解を深めました。

各企業の担当者は、業界の特徴や仕事内容に加え、求める人材像や入社後の働き方、キャリア形成の考え方など



企業担当者の説明を聞く学生

について具体的に説明しました。学生にとっては企業の担当者から直接話を聞く貴重な機会となり、職場の雰囲気や仕事のやりがいについて理解を深める場となりました。

学生たちは担当者の話に熱心に耳を傾け、仕事内容や採用条件、入社後の研修制度などについて積極的に質問する姿も見られました。中央カレッジグループでは、こうしたガイダンスを通じて学生と企業の接点を広げ、円滑な就職活動につなげていく方針です。

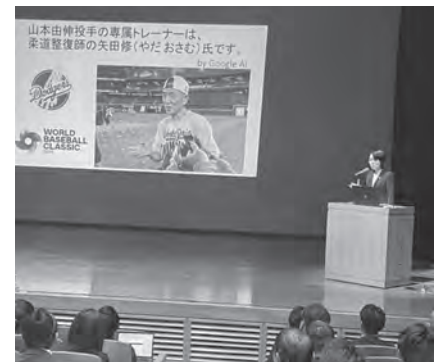
教育実践の成果を発表

CCGアワードに7事例

中央カレッジグループの教職員が日々の取り組みや教育実践の成果を共有する「CCGアワード2025」が3月17日、前橋市の県公社総合ビルで開かれ、7つの事例が発表されました。教育活動の向上と組織全体の成長につながることを目的に毎年開催しており、今回で3回目です。各学校・部門から多くの教職員が参加しました。

開会にあたり、中島理事長があいさつし、教育現場での実践を互いに学び合うことの重要性を指摘。「業務の守備範囲を少し広げて互いの仕事を理解することも大切。自分に置き換えて、発表を参考にしてほしい」とアワードの狙いを説明しました。

発表では、毎日の席替えや体験型就職ガイダンス、週に一度の息抜きカリキュラムなど、実際に取り組んだ教育実践について、各担当教員がその狙いや内容、効果などを説明しました。



CCGアワードで教育実践の成果を発表する教員

AIを活用した業務効率化や、学生をオープンキャンパスのスタッフに組み入れた効果なども紹介され、参加した教職員にとって新たな視点や気づきを得る機会となりました。

本アワードは、部署や立場を越えて実践を共有する場として、今後の教育活動のさらなる発展につながることを期待されています。

受験者が年9000人を突破

CBT新前橋テストセンター

開設2年目、ニーズ高まる

PC端末を使用して各種試験を受験できるCBT新前橋テストセンター（前橋市古市町）は、開設2年目にして年間累計受験者数が9000人を突破しました。同センターの利用は当初の目標を



増設した新しい試験室

上回っており、今年度、さらに受験環境の向上を図るため、群馬法科ビジネス専門学校校舎内からエレベーターのある近隣の本部館4階へ移転することになりました。

CBTとはComputer Based Testingの略で、近年、各種資格試験や検定試験で導入が進む受験方式です。同センターは地域需要の高まりを受けて開設。昨年度には受験可能座席数をそれまでの約1.5倍となる50席に拡大し、試験監督員も増員するなど受け入れ体制を強化しました。

利用者はその後も右肩上がりでも推移し、地域の試験拠点として存在感を高めています。こうした状況を受けて、今年度から本部館4階へ移転し、さらなる利便性向上と受験体制の充実を図る方針です。時代の変化に合わせ、地域の教育インフラの一翼を担う施設として期待されています。

留学生が就職へ一歩

企業と交流し情報収集

中央カレッジグループの外国人留学生とその採用に関心のある企業の交流会が2月、高崎市の労使会館で開かれ、学生たちは自分のスキルがどんな仕事に生かせるのかイメージしながら積極的に情報収集に努めました。

留学生は中央情報大学校と中央情報経理専門学校に在籍し、高度情報技術や国際ビジネス、電気設備などを学ぶ115人、企業側は情報、製造、建設・設備、サービス、販売など多様な業種から県内外の38社が参加しました。

留学生は、自身の専門知識や日本語能力、将来の目標について積極的にアピールし、仕事内容やキャリア形成、在留資格などについて質問する姿が見



企業の採用担当者と情報交換する外国人留学生

られました。

参加企業からは「専門性と意欲の高い学生が多く、採用を前向きに検討したい」との声が寄せられ、留学生からも「企業の方と直接話すことで将来像がより明確になった」との感想が聞かれました。

中央カレッジグループでは、今後も外国人留学生の就職支援を強化し、地域企業と連携しながら国際人材の活躍の場の拡大に努めていく方針です。

学校法人 有坂中央学園 群馬県指定 保育士養成施設

CIA 中央情報経理専門学校

〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4 TEL.027-253-5544(代) FAX.027-254-0605



www.chuo.ac.jp/cia/

CHUO

中央カレッジグループ

難関を突破

税理士、医療・医薬系も成果

日商簿記1級に2人

本校の学生が各分野の検定や国家試験に挑戦し、日頃の学習成果を発揮しています。

会計分野では、会計ビジネス学科1年生が11月の日商簿記検定1級に挑戦し、2人が合格しました。同1級は高度な会計知識と実践力が求められる難関資格。合格した学生は今後、税理士試験科目である簿記論や財務諸表論の合格を目標に、さらなる実力向上を目指しています。

本校では、各学科で実習やインターンシップなどの実践的な学びを取り入れ、教室だけでは得られない専門力の向上に取り組んでいます。

保育福祉学科では、保育・教育実習を通して、学校で学んだ知識や技術を保育現場で実践しています。学生は責任実習で一日

クラス担任を担当するなど、子どもたちと深く関わる経験を重ねています。学生からは「クラスをまとめる大変さや全体に目を配る難しさ、子ども一人一人に配慮することの大切さを実感しました。この経験を生かし、さらに知識と技術を高めていき

保育や医療の実務体験 「学ぶ」と「働く」を両立

たい」との声が聞かれました。実習を通して、子どもの年齢や発達段階に応じた関わりの重要性を学び、将来は一人ひとりに寄り添える保育者を目指しています。

一方、医療福祉秘書学科では、医療機関での有償型長期インターンシップ「デュアルシステム」を実施しています。「学ぶ」と「働く」を両立させながら、医療現場で求められる知識と実務力を養います。実際の職場で責任ある業務を経験することで、自身の強みや課題を見つめ直し、成長につなげていきます。



資格取得を目指し勉強に励む学生



医療販売学科の慰労会で笑顔を見せる学生

また、経営ビジネス学科2年生と税理士専攻1年生は、昨年8月の税理士試験を受験し、簿記論で1人、財務諸表論で4人が合格しました。学生からは「リベンジが果たせました。税法科目にも合格したいです」といった声が聞かれ、次の目標に向けて意欲を高めています。

医療・医薬分野では医療販売学科2年生が昨年8月の登録販売者試験に挑戦し、成果を出しました。合格発表後には渋川市内のグランピング施設で慰労会が開かれ、学生たちは食事を楽しましました。

学生は「入学時から学んできたことが実を結び、良い結果につながりました。大規模な試験は初めてで、良い経験になりました」と振り返っています。今後は地域の健康管理に貢献できる人材としての活躍が期待されます。

昨年7月には、医療福祉秘書学科2年生が医師事務作業補助者検定試験をはじめとする医療事務関連資格に全員が合格しました。

学術大会や起業プレゼンに挑戦

● 青木さん優良賞 ●

本校の学生が研究発表やビジネスプラン提案で成果を挙げています。

医療情報マネジメント学科の青木梨那さんは8月の日本診療情報管理学会学術大会学生セッションで優良賞を受賞しました。テーマは「電子問診票の導入による患者と医療職員の負担軽減は可能なのか」。医療現場のICT化を背景に、電子問診票の活用による業務効率化の可能性について研究しました。

青木さんは「自分の関心を追究した研究が評価され、喜びを感じました。AIの活用が業務負担の軽減につながることを知り、AIと共存する必要性を感じました」と振り返ります。今回の発表は、専門知識の深化だけでなく、他校の学生や専門家との交流を通じて学習意欲や職業理解を高める機会となりました。

GIAでは生方さん2次進出

一方、10月の起業コンテスト「群馬イノベーションアワード (GIA)」ビジネスプラン部門では、経営ビジネス学科の生方聖恋さんが2次審査に進出しました。GIAでは328件の応募の中



優良賞に輝いた青木さん

から13件が2次審査に進みました。

生方さんが提案したのは「群馬県で利用率1位を目指す代行配車サービス」。自動車保有率の高さや飲酒運転の危険性に着目し、既存サービスにはない機能を備えたアプリを考案しました。地域課題の解決を目指す実践的な提案でした。

生方さんは「選ばれるとは思っていませんでしたので驚きました。多くの方の前で緊張しましたが、力を出し切れました」と話しました。



ゲームで国際交流 SDGsの一環で

和やかに交流する学生たち

12月、デジタルビジネス学科1年生と日本語学科1年生による国際交流活動が行われました。これはSDGsを実践するCSCP (Chuo SDGs Challenge Project) の一環です。

テーマは「情報リテラシー」。デジタルビジネス学科の学生が授業で学んだITリテラシーの知識を、日本で学び将来働くことを目指す留学生に伝えることを目的としました。

学生たちは、情報モラルやインターネット利用の注意点を分かりやすく伝

えるため、手作りの人生ゲームやかるた形式の教材を制作。楽しみながら学べる内容に工夫しました。「情報リテラシーを高め、日本で安心して生活してほしい」という思いを込めて準備を進めました。

当日は、ゲームを通じて自然と会話が生まれ、知識を伝えるだけでなく互いに学び合う和やかな交流の場となりました。学生同士の理解を深める機会にもなり、国際交流と学びが結びついた取り組みとなりました。



日本語能力試験のN1に合格した3人

来日3年の快挙、努力実結ぶ
最上位レベルに3人合格

日本語能力試験

12月に実施された第2回日本語能力試験 (JLPT) で、最上位レベルのN1に本校国際ビジネス学科2年生3人が合格しました。学生はモンゴル、ネパール、ミャンマー出身で、来日から約3年での快挙となりました。

N1は高度な読解力や語彙力、文法理解が求められる難関試験で、特に漢字を日常的に使用しない国・地域の出身者にとっては大きな挑戦とされています。そのような中で今回の合格は、学生たちの日頃の努力と継続的な学習の成果といえます。

本校では1年次の日本語授業において、日本語能力試験の出題形式を取り入れた問題演習を行い、誤答の分析や解き方の指導を通して実践力の向上を図ってきました。さらに模擬試験の実施や、希望者を対象とした課外授業などの学習機会を設け、段階的に試験対策を進めてきました。教員も日常的に声をかけながら学習を支援し、学生たちは2年次に入ってから主体的に学習を継続してきました。

語彙や漢字の習得に苦勞する場面もありましたが、学生同士が互いに励まし合い、刺激を受けながら学習に取り組んだことも成果につながりました。

高度な日本語力は、IT、観光、貿易などの分野で専門知識を実務に生かすための重要な基盤となります。本校では今後も、専門分野の知識と日本語力の双方を身に付け、日本社会の一員として主体的に活躍できる人材の育成に取り組んでいきます。



スピーチするデュラルさん

デュラルさんが優勝
日本語のスピーチコンテスト

日本語学科の全学年を対象とした「校内スピーチコンテスト」が1月に本校で開かれ、ネパール出身の2年生デュラル・ピソカルマ・キランさんが優勝しました。

このコンテストは、授業で学んだ日本語力の成果を発表する場として企画されたもので、本校では初めての開催となりました。クラス予選を勝ち抜いた各クラス3人、計9人が出場し、日

本語での表現力や発表内容を競いました。

出場した学生たちは、母国と日本の文化や生活の違い、来日後に努力していること、将来の目標など、それぞれが考えたテーマでスピーチを行いました。来日後、3カ月から1年4カ月ほどの学生たちでしたが、全員が原稿を見ることなく堂々と発表し、会場からは大きな拍手が送られました。

優勝したデュラルさんは、ネパールと日本の交通事情を比較しながら、日本で生活する中で感じたことや気付いたことを自分の言葉で発表しました。難しい表現にも積極的に挑戦し、聞き手に伝わるよう工夫したスピーチが高く評価されました。

さらにデュラルさんは、2月に開催された留学生によるスピーチ大会「CID EXPO」に学校代表として出場しました。校内コンテストでの内容をさらに深めて原稿を作り直し、何度も練習を重ねて本番に臨みました。その結果、優良賞 (第3位) を受賞しました。

専門知識を社会に生かす

ピアノとプレゼンを披露

日々の学びの成果を、多くの人の前で発表する機会が本校で設けられました。保育福祉学科によるピアノ発表会と、医薬販売学科による薬物乱用防止セミナーでのプレゼン発表です。

2月に行われたピアノ発表会では、学生たちがピアノや声楽の授業で培ってきた技術を披露しました。本番では緊張した様子も見られましたが、それぞれが真剣な表情で演奏に臨み、これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮しました。

発表を終えた学生は「とても緊張しましたが、日々の練習の成果を出すことができ、良い経験になりました。思い通りに弾けず涙を流しながらレッスンを受けた日もありましたが、それを乗り越えてこの日を迎えられたことが自信につながりました」と振り返りました。来年はさらに難易度の高い曲に挑戦し、技術向上を目指していきたいと話しています。

また、10月には医薬販売学科1年生が薬物乱用防止セミナーでプレゼンテーションを行いました。10月は厚生労働省や都道府県が主導する「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」の期間でもあり、医薬品の乱用やオーバードーズが社会問題となる中、学生たちが主体となって薬物乱用防止を呼びかけました。



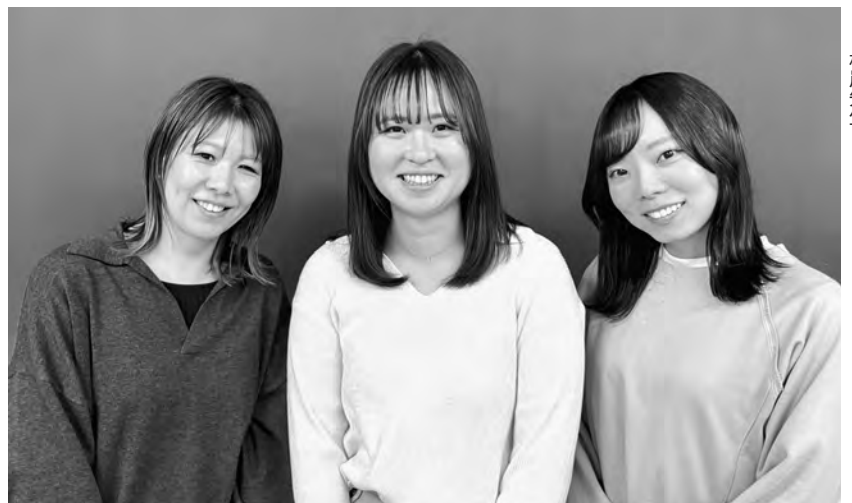
ピアノの演奏を披露する学生



薬物乱用防止をテーマにプレゼンする学生

授業で学んだ医薬品に関する知識を基に、分かりやすい資料や説明を工夫しながら発表を行い、来場者に向けて正しい知識の普及を図りました。専門分野で学んだ知識を自らの言葉で社会に伝える経験は、学生にとって大きな学びとなりました。

本校では今後も、学内外での発表や地域への啓発活動などを通じて、専門知識を社会に生かす力を育てていきます。



昨年入職した3人。右から、正田先生、飯島先生、根岸先生

即戦力につながる学び

新入職員が本校の魅力語る

昨年入職した教務部医療医薬教育課の飯島美紅先生、同部保育福祉教育課の正田愛理先生と根岸千鶴先生に、学校の印象や学生への思いを聞きました。総合病院での医療事務や認定こども園での保育教諭など、それぞれの現場経験を生かしながら、本校で新たな一歩を踏み出しています。

学校の魅力について飯島先生は「実践的な授業が多く、即戦力につながる学びができる学校だと感じました」と話します。正田先生は「行事の盛り上がりで驚きました。私もついはいしゃい

でしまいました」と笑顔を見せ、根岸先生は「社会に出る前の準備をしっかり行っているところが魅力です。初めての授業はとても緊張しました」と振り返ります。

学生について尋ねると、「問題が解けた瞬間や何気ない会話の笑顔に元気をもらいます」(飯島先生)、「授業以外のことも相談してくれると嬉しい」(正田先生)、「普段と違う変化に気づく観察力に感心します」(根岸先生)と、温かな言葉が聞かれました。

3人は「最近の出来事や趣味など、気軽に話しかけてほしい」と学生との交流を楽しみにしています。明るく前向きな3人の先生方が、これからどのような新しい風を学校にもたらしてくれるのか期待が高まります。

学校法人 有坂中央学園 専門学校

CID中央情報大学校

〒370-0841 群馬県高崎市栄町13-2 TEL.027-324-8511(代) FAX.027-325-8820



www.chuo.ac.jp/cid/

CHUO

中央カレッジグループ

「銅線盗」許さない! 学生が防犯システムを開発

特許を取得 群馬県警から感謝状

本校の学生たちが、社会問題となっている太陽光発電施設の銅線盗難を防ぐ新たなセキュリティシステムを開発し、特許を取得しました。この取り組みは群馬県警察本部からも高く評価され、学生チームに感謝状が贈られました。

このプロジェクトは、高崎市の不動産会社「親広産業」との産学連携によって実現したものです。本校の高度

ICTデザイン学科の学生チームが中心となり、近年深刻化している太陽光発電所での銅線盗難被害を防ぐ仕組みの開発に取り組みました。

開発されたシステムは、ケーブルが引き抜かれる際の振動によって磁石が外れ、それをセンサーが検知して即座に大音量の警報を鳴らす仕組みです。構造はシンプルながらも確実に作動する点が評価され、9月に特許を取得しました。さらに11月には商品化され、すでに県内の太陽光発電施設で導入が進んでいます。

こうした防犯への貢献が認められ、



群馬県警察本部から感謝状を贈られ、関係者と記念撮影する学生たち

12月には群馬県警察本部から学生たちへ感謝状が授与されました。学生たちの「自分たちが学んだ技術で社会の安全を守りたい」という思いが、実際の社会課題の解決につながった形です。

この取り組みは、日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、上毛新聞など主要

メディアでも大きく取り上げられ、学生による実践的な技術開発として注目を集めています。

本校では今後も、教室の学びにとどまらず、実社会の課題解決に直結する「実装力」を備えたエンジニアの育成を目指していきます。



難関の電験三種に合格した4人

難関の電験三種、4人合格 国家試験で輝かしい実績

電気通信学科では昨年度、各種電気系国家資格に挑戦し、輝かしい実績を残しました。特に「難関の電験三種」として知られ、高度な専門知識が求められる第三種電気主任技術者試験では4人が突破。主な試験の合格者は次の通りです。カッコ内は出身校。

- 第三種電気主任技術者試験 (3・8月実施、全国合格率14.8%)
船津凌空(前橋工業高校)、齊藤颯大(東京成徳大学深谷高校)、清水優希(藤岡北高校) 清水翔太(渋川高校)
- 二級電気工事施工管理技士(第一次検定) (11月実施、全国合格率55.1%)
植井隼人(深谷高校)、百々美由羽(高崎女子高校)、湯浅樹壺(安中総合学園高校)、橋爪愁那(桐生工業高校)、榎原崇太(前橋工業高校)
- 第二種電気工事士試験 (12月実施、全国合格率71.4%)
ネウパネ・ソウロブ(中央情報大学校日本語学科)、ボロル・エルデネ・トゥグルドル(Fuji Language School)

CM制作を担当しました。本プロジェクトは学生の技術向上と実践力の養成を目的として、コンテスト形式で実施。放送局への採用を目標に、プロの現場と同じ緊張感を持って審査が行われました。

学生は15秒という限られた時間の中で学園の魅力を伝えるべく、制作に没頭。審査の結果、最優秀賞に曾根健太さん(伊勢崎商業高校出身)と春山実咲さん(高崎商業高校出身)の各作品が選ばれました。

2人の作品は同局の番組「ニュース×がるがる」の枠内で交互に放送されることになり、放送期間は3月2日から7月27日までの約5カ月間。自らの作品が地上波で県内全域に届けられる貴重な経験は、制作に携わった学生全員にとって大きな自信となりました。今後も本学園では、実社会と直結した学びを通じて、次世代を担うクリエイターの育成に力を注いでいきます。

外部講座を積極展開 中高生にキャリア教育

本校は地域教育連携の取り組みとして、中学・高校での外部講座を積極的に展開し、社会につながる実践的な学びを提供しています。

高崎商業高校では、内池雄先生がプレゼンテーション実践講座を半年間(全6回)にわたり約200人の生徒に実施。話し方の技術だけでなく、「なぜ」を繰り返して本質を考える思考法や、多角的な視点からアイデアを生み出す発想力、抽象的な言葉を使わない「禁止ワード」を設けたワークショップなどを行いました。

伊香保中学校では、地域PR動画の制作講座を加藤智之先生が実施。映像制作の設計図となる絵コンテの重要性や、ビデオカメラ・三脚の扱い方など撮影の基本を実践的に指導しました。

尾瀬高校ではデザイン基礎講座とし



中高生に展開している外部講座

て、デザインツール「Canva」を用いた制作演習を大橋素子先生が行いました。バナーやチラシのデザインを比較し見やすい構成を考えることで、デザインの基本的な考え方と表現方法を学びました。

群馬TVのCMを制作 最優秀賞の2作品放映

本学園は群馬テレビに学園CMを放映するプロジェクトを実施し、ネット動画クリエイター学科の1年生がその

仮想空間に 群馬の名所 ゲーム開発に4人参加



4人が制作したゲームのワンシーン

ゲームの開発ツールは、世界で8千万人以上が利用するRoblox(ロブックス)で、誰でも自作ゲームを世界に公開して遊べる「ゲーム系メタバース」として注目されています。

制作したゲーム「やきまんじゅう of the dead」は、Gメッセ群馬や県庁を再現した空間を駆け抜けるアクションゲームで、3月にGメッセ群馬で開催された合同企業説明会で披露されました。

過去最大80ブース

進化したCID EXPO

学生たちの技術を見て、触れて、体験してもらうイベント「CID EXPO 2026」が2月、Gメッセ群馬で開かれました。5回目、過去最大となる80ブースが出展し、会場は始終活気にあふれました。

今回は、学生が学んでいる情報、デザイン、電気の各分野の発表があったほか、「卒業生・高校生・企業・一般アーティスト」も新たに加わり、幅広い展示構成となりました。

学生出展では、トラッキングシステムを使ったヒーロー体験ブースや、次世代型「だるまさんが転んだ」を体験できるブースなど20のブースが出展されました。

卒業生・企業・一般・アーティストエリアでは、IT体験やペンタブレッ



多彩な展示で活気につつまれたEXPO会場

トの最新機種体験、有名Vチューバーによる出展、オリジナル作品の物販など60ブースが出展されました。

さらに、ステージイベントでは高校生によるバンド演奏、ダンス披露、吹奏楽演奏などのパフォーマンスが行わ

れ、場内は2千人を超える人たちでにぎわっていました。

過去の成果を継承しつつ、産学連携や地域交流の域を超えた「CID EXPO」。学生たちの技術力が社会とつながる貴重な一日となりました。

プロ直伝の実習 ドローン資格目指し

本校が実施している「ドローン実習」は、空撮専門企業、fly株式会社の現役プロを講師に招き、航空法などの座学から操縦までを一貫して学ぶ実践的な授業です。広大な農場での飛行や、室内でモニター映像のみを頼りに操縦する高度な訓練も実施。現場で通用する技術を徹底的に磨きます。

最大の特長は、資格取得と費用面での手厚い支援体制です。本講座の履修により、ドローン国家試験の実技などが一部免除され、約20万円かかる受験費用が半額程度に軽減されます。さら



ドローンの操縦技術を学べる「ドローン実習」

に、試験合格者は空撮アルバイトとして採用される道も用意されており、実務経験を積みながら受験費用を回収できる画期的な仕組みを構築しています。「学ぶ・資格を取る・稼ぐ」が一体となった、本校ならではのカリキュラムです。

本校教員

大橋さん大賞

GUNMAマンガ・アニメフェスタ

第13回GUNMAマンガ・アニメフェスタのマンガ部門で、本校教員、大橋素子さんの作品「フロントスタッフの軌跡」が大賞と特別審査員賞（最高賞）を受賞しました。

この作品は、大橋さん自身の体験をもとに描かれた「お仕事マンガ」です。2月に群馬県庁で表彰式があり、大橋さんは支えてくれた周囲の人たちへの感謝や、将来の抱負などを述べました。

大橋さんは4月もマンガの授業を担当する予定で、熱意あふれる指導が期待されます。

このほか、本校学生も以下のように入選を果たしました。

・4コマ漫画部門 村居龍之丞（本庄第一高校出身）



大賞を受賞した大橋さんの作品

大橋さんの作品「フロントスタッフの軌跡」
https://www.chuo.ac.jp/cid/archives/3430



・イラスト部門 桑原想（勢多農林高校出身）、横澤瑠奈（前橋育英高校出身）

TBMコンテスト 野田さん 最優秀賞



高崎ビューティモード専門学校の公式キャラクターデザインコンテストがあり、クリエイティブデザイン学科2年の野田帆乃華さん（渋川工業高校出身）の作品が最優秀賞に輝きました。

高崎ビューティモードの学生をモデルに、濃いピンクと黄色の印象的な色を使用し、海外テイストのカートゥーン調で表現。名前はセヴィー（左）と

電気学生おもしろCID劇場 第3話

作:小野 通



ビジュアル=写真。イベントごとにコーディネートやメイクのアレンジを楽しめるデザインに仕上がっています。

今後はパンフレットや外部への発信物など、幅広い媒体で使用される予定です。

書道やアニメで交流



留学生50人と中学生

四ツ葉学園中等教育学校、群馬大学、中央情報大学の3校合同で、互いの文化理解を目的とした「異文化交流会」が今年も開催されました。四ツ葉学園の日本人中学生約130人が、群馬大学・本校国際エンジニア学科の留学生約50人と交流しました。

留学生から中学生に向けて、母国

の民族衣装や雑貨などを使いながら、自国の文化を日本語で紹介しました。中学生からは書道や制服の試着、アニメや漫画の紹介、算数の筆算など、さまざまな日本文化が体験型で紹介されました。参加国籍は日本を含む18カ国にのぼり、会場では日本語を通して互いの思いを伝え合える温かな雰囲気が広がりました。このイベントを次につなげられるよう、今後の継続的な交流が期待されます。

互いの文化理解を図った異文化交流会

学校法人 有坂中央学園

GLC 群馬法科ビジネス専門学校

〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-48-1 TEL 027-256-7700(代) FAX 027-256-8811



www.chuo.ac.jp/glc/

CHUO

中央カレッジグループ

令和7年度公務員試験

最終合格率95%超

令和7年度公務員試験において、本校卒年次生の最終合格率は95%を超えました。多くの学生が志望先への切符を手にし、高い実績を収めました。

事務職では、群馬県職員（行政事務・学校事務・警察事務）に計13人、国家公務員では一般職と税務職を合わせて22人が最終合格しました。金融庁や国土交通省といった本省への採用者のほか、前橋地方法務局や前橋地方検察庁など地元機関での勤務を選んだ学生もあり、それぞれが将来像を描きながら

進路を決定しています。また、独立行政法人である国立大学法人等職員採用試験でも、3年連続で最終合格者を輩出しました。

公安系では、警察官として群馬県警、埼玉県警、警視庁に計17人が合格しました。消防職では前橋市消防局、伊勢崎市消防本部、桐生市消防本部、太田市消防本部、多野藤岡広域消防本部のほか、県外では熊谷市消防本部、東京消防庁、川崎市消防局、上野原市消防本部など、4都県で計25人が合格しま

した。

近年、公務員採用試験は「人物重視」の傾向が強まり、試験方式や出題科目も大きく変化しています。そのような中で、学生一人一人の努力に加え、教職員が一体となって柔軟に対策を進めてきたことが、今回の高い合格率につながりました。今後も情勢の変化に対応しながら、地域社会や日本の未来を支える人材の育成に努めてまいります。



バスケットボールを楽しむ学生

スポーツで交流 バスケットなど6種目

前橋市のヤマト市民体育館で2月、スポーツ大会が開かれ、バドミントン、バレーボール、ドッジボール、バスケットボール、フットサル、リレーの6種目が行われました。

今年度は従来のクラス対抗ではなく、全クラス混合で3つのチームを編成する新しい形式で実施しました。普段あまり関わる機会のない学生同士が同じチームとして協力し、競技中には声を掛け合う場面も多く見られ、会場は大きな盛り上がりを見せました。

大会は実行委員の学生が中心となって準備を進め、当日の運営でも多くの学生が協力しました。スポーツを通して学年やクラスの枠を越えた交流が生まれ、参加者にとって心に残る一日となりました。

公務員の仕事を 調査・発表

8班に分かれ訪問取材

2年制1年生による「フィールドワーク合同発表会」が3月9日、本校で開催されました。学生が1年間取り組んできた調査研究の成果を発表する場で、4月から本格的に始まる公務員試験に向けた準備活動の一環として行われました。

学生たちは事前調査や官公庁への取材を通して志望職種について研究し、その成果をクラスメートや教職員の前で発表しました。発表はパワーポイントを用いて行われ、調査内容やデータが分かりやすく整理されるなど、授業で培ってきたパソコンスキルが発揮されていました。



フィールドワークの成果を発表する学生

この活動では研究テーマの設定から官公庁への訪問依頼、資料作成、発表までを学生主体で進めました。訪問のアポイントメントも学生自身が担当し、電話やメールでのやり取りを通して前期に学んだビジネスマナーを実践する機会となりました。

本年度は志望分野ごとに8班に分かれ、市役所や警察署、消防署、中央省庁などを訪問して業務内容を調査しました。発表では「高度救助隊の訓練内容と資機材」「水の安定供給の仕組み」「地方税と国税の違い」などの研究成果が紹介され、公務員の役割への理解を深めていました。

実践的に職業学ぼう



防護服に身を包んで放水訓練する学生

文科省認定の課程

本校2年制コースは、文部科学省から認定を受けた「職業実践専門課程」となっています。職業実践専門課程とは、企業や官公庁、各種団体と連携し、最新の実務知識や技術、技能を身につけられるよう編成されたカリキュラムを持つ専門課程です。

本校では、さまざまな現場体験を通して実践的な学びを提供しています。主な取り組みとして、前橋市消防局での体験実習、陸上自衛隊相馬原駐屯地での一日入隊体験、学校事務職員による特別講義などを実施しています。

消防局での実習では、通信指令室などの施設見学や、はしご車をはじめとする各種資機材の見学を行いました。また、放水訓練やロープワークも体験し、消防業務の一端に触れる貴重な機会となりました。

自衛隊での実習では、正しい歩き方や隊列の組み方といった基礎教練から始まり、ほふく前進やテント設営などを体験しました。さらに、駐屯地の食堂で昼食をとるなど、普段はなかなかできない体験も行いました。

こうした現場と直結した学びを通して専門性を高め、実務への理解を深め

られることが、本校の職業実践専門課程の大きな魅力の一つです。学生たちは楽しみながら学び、将来の進路に向けて成長を重ねています。

都庁や放水路を見学

1年生が 研修旅行



「地下神殿」の異名を持つ首都圏外郭放水路を訪れた学生

2年制1年生の研修旅行が12月、1泊2日の日程で実施され、学生たちは首都圏の官公庁で行政や治安維持の最前線を見学しました。

初日は造幣局さいたま支局、横浜税関資料展示室、海上保安庁横浜防災基地、2日目は首都圏外郭放水路と東京都庁を訪問しました。

参加した学生からは「東京の魅力と行政の役割をより深く理解でき、これまで“遊びに行く場所”という印象だ

った東京を別の視点から見つめ直すきっかけになった」「海上保安庁の業務は海難事故対応だけでなく、密漁や密輸の取り締まりなど幅広く、社会にとって重要な役割を担っていることが分かった」といった感想が聞かれました。

今回の研修旅行は学生たちが公務の役割や責任の重さを実感し、将来の進路について改めて考える貴重な機会となりました。

学校法人 有坂中央学園 専門学校

CAG 中央農業大学校

〒371-0805 群馬県前橋市南町2-31-1 TEL.027-220-1200(代) FAX.027-223-2814



www.chuo.ac.jp/cag/

CHUO

中央カレッジグループ

農業の現場を体験

機具メーカーや市場訪れ

アグリビジネス学科、美と健康と食プロデュース学科の1年生は、後期の授業を利用して複数の企業や施設で校外見学・実習を行い、講義で学んだ情報と実際に現場で見て触れた感覚をリンクさせて学びを深めました。

11月、長ネギの調整機を扱う農機具メーカー、マツモトを訪問し、各種調整用機具の仕組みや操作方法を学びました。12月には農機具の販売や整備を手掛ける群馬キセキ販売を見学し、

ICTを活用したスマート農業機械について理解を深めました。

2月には家畜取引の拠点である渋川家畜市場を訪れ、肉用牛の審査や市場の役割を学習しました。さらに、野菜の接ぎ木苗を生産するエバグリーン富士見では学生が各部署に分かれて実際の業務を行う実習に参加し、接ぎ木や定植、出荷作業などを体験、生産現場の流れを実践的に学びました。

参加した学生からは「苗づくりの重



長ネギの皮をむく機具を体験する学生

要性と奥深さを知ることができた「各工程の意味や要点を知ることができ

た」との声が聞かれ、多方面から農業を学ぶ貴重な機会となりました。

3年目で念願果たす

就職しました

アグリビジネス学科
フードプロダクト開発専攻

小塚 柚那さん
(吾妻中央高校出身)

就職先：浅間酒造株式会社

▽就職先を選んだ理由

専門学校で学んだ食の知識を生かしたいと思い、志望しました。酒造業の他に観光業も経営しており、地域の良さを観光客の方に伝え、お客様を笑顔にするという経営の姿勢に魅力を感じ、私もこの会社でたくさんの人に地域の良さを伝える一員になりたいと思いました。

▽これからの目標

お客様に笑顔をお届けできるような人材になりたいです。そのために、一日でも早く企業に貢献できるよう努力していきたいと思っています。

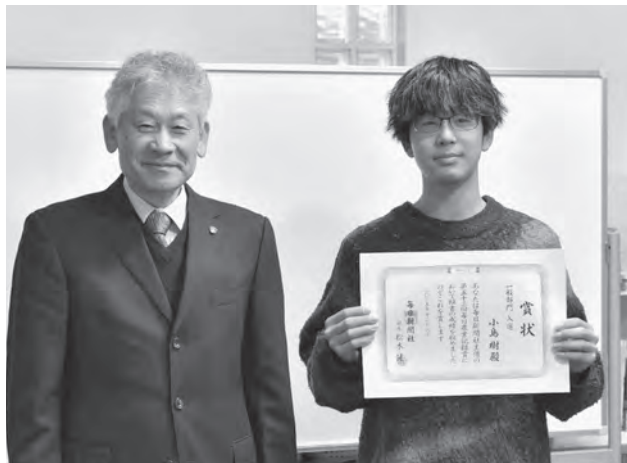


▽後輩たちへのメッセージ

2年間という時間はあっという間に過ぎてしまいます。企業研究は計画的に行い、積極的に合同企業説明会に参加するなど、余裕を持って準備を進めることが納得のいく進路選択につながると思います。計画性と行動力をもって就職活動に取り組むことが重要です。

毎日農業記録賞

小島さん(アグリスペシャリスト学科3年)が入選



表彰状を掲げる小島さん(右)と入賞をとみに喜ぶ木村剛校長

農や食、そして農に関わる環境への想いや体験をつづる第53回毎日農業記録賞(毎日新聞社主催)一般部門で、本校アグリスペシャリスト学科3年の小島樹さんが入選を果たしました。農業を志したきっかけから、進路選択、3年間の専門学校生活を振り返り、多くの苦労や喜び、自身の成長を率直につづりました。

小島さんは入学当初から毎年応募を続け、3年目にして念願の受賞となりました。4年制のアグリスペシャリスト学科に在学している小島さんは、4年次の卒業研究に向けて栽培計画や準備を進めつつ、並行して就職活動も行い、多忙な日々を過ごしていますが、そんな中でも「畑に出て作物を見ると前向きな気持ちになれる」と言います。

リンゴのデザート ベイシアで人気

果実工房
さあかり

市立太田高生が考案 果実工房ありさか

中央フレッシュフーズは太田市立太田高校の生徒が考案した、沼田産リンゴを使用したカップデザートを製品化しました。この企画はスーパーマーケット、ベイシアの依頼を受けて実現しました。

12月6、7、13、14日の4日間、同校周辺のベイシア店舗で販売すると、用意した500個が連日完売。急ぎよ、追加製造するほどの大盛況となりました。



沼田産リンゴを使用したカップデザート

た。製品化にあたっては、生徒たちの自由なアイデアを形にするため、数パターンの試作を経て打ち合わせを重ねました。自分たちのイメージが形になった商品を見て、生徒たちからも喜びの声が上がっていました。

学生がメニュー開発

GGC 4店舗で販売

アグリビジネス学科フードプロダクト開発専攻の学生が食品開発の授業で25回目となるコラボメニュー開発に取り組みました。今回は2つのメニューが採用されました。

1つ目は小塚柚那さん(吾妻中央高校出身)の「冬のほっこりグラタンチーズインハンバーグ」。濃厚ゴーダチーズと自家製ホワイトソースを重ね、香ばしいパン粉を用いてグラタン風に仕上げました。甘みのあるかぼちゃと彩り野菜が、贅沢な味わいとなりました。



学生が開発したハンバーグ

もう1つは山形純大さん(中央高等専修学校出身)の「ごはんがすすむ! 上州すき焼きハンバーグ」。香り良く焼いた長ネギとしらたきを添え、旨みが広がる特製すき焼きソースで仕上げました。両メニューとも2月限定で、GGCの高崎本店や小相木店など4店舗で販売されました。

学校法人 有坂中央学園 厚生労働大臣指定 歯科衛生士養成所
CIS 中央医療歯科専門学校 太田校
 〒373-0026 群馬県太田市東本町41-12 TEL.0276-25-8833(代) FAX.0276-25-8841



www.chuo.ac.jp/cis/

CHUO
 中央カレッジグループ

「大きく羽ばたく」

太田で卒業式

歯科衛生士国家試験24人が合格

本校の卒業式が5日、太田市のロイヤルチェスター太田で開かれ、歯科衛生士学科の25人に卒業証書と専門士の称号が授与されました。

式では国歌を斉唱の後、中島慎太郎理事長から、優績賞の並木滯さん、日本歯科衛生士会長賞の柿沼さくらさんから延べ21人に8つの褒賞が贈られまし

た。渡邊恵里校長は式辞で「先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れず、自分らしさを武器に社会で活躍してください」と卒業生を激励しました。

送辞で斎藤瑠那さんは「患者さんに愛される歯科衛生士を目指してください」とエール。卒業生を代表して並木滯さんは教員や学校職員への感謝を述



卒業式の後、記念撮影する学生

べ、「ここでいただいた力を基に、大きく羽ばたいていきたい」と決意を語りました。太田新田歯科医師会の小野好一会長をはじめとする来賓や保護者

らが出席し、式は盛大に行われました。3年生は3月の歯科衛生士国家試験に挑み24人が合格しました。

手洗いの重み学ぶ

1年生が専門職の自覚

歯科衛生士学科の1年生が、入学後初めて白衣を着用し、手洗い実習を行いました。真新しい白衣に身を包んだ学生たちは、やや緊張した様子を見せながらも、これから始まる専門的な学びへの意欲をのぞかせていました。

歯科衛生士は患者の口腔内に直接触れる機会が多い職種であるため、手洗いは感染予防の基本であり、最も重要な技術の一つとされています。実習で

は、汚れの残り具合を確認できる専用ライトを使用し、洗い残しを目で確かめながら正しい手洗い方法を学びました。

学生からは「白衣を着たことで歯科衛生士を目指す実感がわいた」「手洗いにも大きな責任があることを知り、



手洗い実習に取り組む学生

医療職としての意識が高まった」といった声が聞かれました。今回の実習は、専門職としての自覚を育てる大切な第一歩となりました。

臨地で実践力養う

2年生、現場で成長

歯科衛生士学科の2年生は臨地実習に取り組みます。実際の医療現場では、これまで学んできた知識や技術に加え、患者への配慮やコミュニケーションの大切さも求められます。学生たちは慣れない環境に戸惑いながらも、一つ一つの経験を大切に、真剣な姿勢で実習に臨んでいます。

臨地実習では、基本的な業務の確認だけでなく、現場特有の緊張感や責任の重さを実感する場面も多くあります。指導を受けながら自分にできることを考え、少しずつ成長していく姿が見られます。戴帽式で抱いた決意を胸に、歯科衛生士として活躍するための力を着実に身に付けています。



相互実習に取り組む学生

また校内では、知識と技術の向上を目指し、学生同士で行う相互実習にも積極的に取り組んでいます。こうした経験を通して、学生一人一人が次のステップへと進んでいくことが期待されています。

学びの成果を披露

卒業研究発表会

卒業研究発表会が10月、本校で行われ、3年生がこれまで積み重ねてきた学びの成果を発表しました。会場には開始前から緊張感が漂い、学生たちは静かな表情で出番を待っていました。

本番では、研究の目的や取り組み内容についてスライドを用いながら発表が行われました。学生たちは限られた時間の中で要点をまとめ、落ち着いた様子で丁寧に説明していました。これまでの授業や実習で培ってきた知識や経験が、発表の随所に表れていました。

今回の卒業研究発表会は、学生たちにとって自身の成長を実感するとともに、歯科衛生士としての意識をさらに高める貴重な機会となりました。

日本デンタルショー見学

最新の歯科医療に触れる

本校の全学年が9月に東京で開催された日本デンタルショーに参加しました。日本デンタルショーは、歯科医療分野の最新機器や材料、技術、情報が集まる国内有数の展示会で、多くの歯科医療関係者が来場します。

今回の参加は、授業で学んだ知識を

より深く理解し、実際の歯科医療現場で使用されている機器や技術に触れることを目的として実施されました。会場にはデジタル技術を活用した歯科機器や最新の治療システムなどが多数展示されており、学生たちは説明を聞きながら熱心に見学していました。実際に機器を操作できる展示もあり、歯科医療の進歩や現場の工夫を体感する機会となりました。



日本デンタルショーを見学する学生

参加した学生からは、「授業で学んだ内容と実際の機器が結びついて理解できた」「将来働く現場のイメージがより具体的になった」といった声が聞かれました。

今回の見学は、学生たちにとって歯科医療への理解を深め、今後の学習意欲を高める貴重な経験となりました。



セミナーに参加した学生

材料セミナーに参加

臨床現場の活用をイメージ

歯科衛生士学科の2年生20人は12月、学園バスで都内のジーシー本社を訪問し、材料セミナーに参加しました。歯科材料の特性や現場での活

用方法について学び、授業で得た知識が実際の製品や臨床現場とどのように結びついているのかを理解する機会となりました。

館内見学ではチームラボの展示も見学し、体験型の展示を通して理解を深めました。参加した学生からは「企業で活躍する歯科衛生士の存在を知ることができ、将来の働き方を考えるきっかけになった」といった声が聞かれました。

今回のセミナーは、専門分野への理解を深めるとともに、今後の学習や進路を考える上で有意義な機会となりました。

学校法人 有坂中央学園 厚生労働大臣指定 歯科衛生士養成所

CMS 中央医療歯科専門学校高崎校

〒370-0843 高崎市双葉町2-8 TEL. 027-310-5088 FAX. 027-310-5622



www.chuo.ac.jp/cis/

CHUO

中央カレッジグループ

歯科衛生士国家試験

24人が合格果たす

本校の3年生が3月の歯科衛生士国家試験に挑み、24人が合格しました。学生たちは3年間の学びの成果を発揮し、国家資格取得への第一歩を踏み出しました。

学生たちは10月から放課後の補習に取り組み、苦手分野の克服に向けて学習を重ねてきました。質問を積極的に行ったり、友人同士で教え合ったりし

ながら理解を深め、教職員も全体制で指導にあたりました。

2月には国家試験合格を祈願して、学園から「合格フルーツサンド」が贈られました。学生たちは包装紙に付いた合格シールを携帯電話などに貼り、合格への思いを込めていました。また、節分には3年生と教職員で豆まきを行い、全員合格を願いました。



GCセミナーに参加した学生

歯科材実習に31人 都内でセミナー

本校は12月、東京都のジーシー本社で「GC材料セミナー」に参加しました。2年生31人が参加し、印象材や歯科用セメント、ホワイトニング材などの歯科材料について学びました。

各材料の特徴や用途、取り扱い時の注意点について説明を受けた後、実習を行いました。学生たちは実際に材料を練和したり、操作手順を確認したりしながら、それぞれの性質の違いを確かめていました。

実習では、通常の授業では使用できる機会が少ない高価な材料にも触れることができ、材料ごとの硬化時間や操作性の違いを体験しました。適切な取り

扱いが治療の精度や安全性に直結することを学び、基本操作の大切さを改めて確認する機会となりました。

参加した学生たちは終始真剣な様子で取り組み、歯科医療の現場で求められる知識と技術への理解を深めていました。

人命守る手当て学ぶ

1年生に救急救命講習

本校で12月、救急救命講習が実施されました。1年生42人が看護学の授業の一環として参加、高崎市等広域消防局高崎東消防署の職員3人を講師に迎え、心停止など緊急時にその場に居合わせた人が適切な応急手当を行えるようにする「普通救急救命講習」を受講



成人の祝いでタルマに目入れをする学生

成人の祝いでタルマに目入れ

2年生を対象とした「成人の祝い」が1月、本校で行われました。式では校長先生から祝辞が贈られ、成人を迎えた学生たちの新たな門出が祝福されました。

本校では、成人の祝いの際に学生たちとともにタルマの目入れを行うことが恒例となっています。当日も学生一人一人が願いを込めながらタルマに目を入れました。墨汁が垂れ

ないように慎重に筆を運び、少し緊張した表情を見せながらも、楽しそうに取り組む様子が見られました。会場には和やかな雰囲気が広がり、思い出に残る時間となりました。

2年生は1月中旬から臨地実習の第二クールが始まりました。成人としての自覚を胸に、それぞれの目標に向かってさらに努力していくことが期待されます。

しました。

講習では、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使用方法について、実技を交えながら丁寧な指導が行われました。安全確認から通報、胸骨圧迫、人工呼吸までの流れを学んだ後、人形を使って実践しました。講師の助言を受けながら、学生たちは真剣な表情で取り組んでいました。



人形を使って実践的な救命方法を学ぶ学生

AEDの操作方法についても実践的に学び、音声ガイダンスに従った手順やパッドの装着位置を確認しました。今回の講習は、万が一の事態に備え、人命を守るための知識と行動力を身につける貴重な機会となりました。

26人が卒業研究発表

歯ブラシ選び方など調査

卒業研究発表会が9月、高崎市総合福祉センターたまごホールで開かれ、3年生26人が登壇し、4月から取り組んできた研究の成果を発表しました。

学生たちはそれぞれテーマを設定し、実験や調査、分析を進めながら論文にまとめました。一人4分という限られた発表時間の中、目的や方法、結果を整理して伝えていました。



研究成果を発表する学生

内容は臨床を意識したものや、患者さんへの対応を考えたものなどさまざまでした。評価は在校生が行い、研究内容や発表の分かりやすさなどから順位を決めました。その結果、「患者に合った歯ブラシの選び方」をテーマにした研究が最優秀発表に選ばれました。

口腔機能の検査学ぶ

高齢化で重要性高まる

高齢化で誤嚥（ごえん）やかむ力の低下が広く課題視される中、口腔機能セミナーが11月、本校で開かれ、3年生26人が参加しました。歯科医療メーカー、ジーシーから講師を招き、口腔機能の低下状況を調べる検査の狙いや方法について実践的に学びました。



口腔機能の重要性を学んだセミナー

口腔機能の低下とは、加齢や疾患などの影響により、食べる、飲み込む、

話す、といった口の働きが鈍る現象。学生たちは、検査の目的や手順について説明を受けた後、実際に器具を用いながら、そしゃくや嚥下機能の評価方法について理解を深めました。

こうした症状を早期に気づき、適切なケアやトレーニングを行うことで、機能の維持・向上が期待できます。今回のセミナーは、歯科衛生士として求められる知識と技術を実践的に学ぶ貴重な機会となりました。

学校法人 有坂中央学園 厚生労働大臣指定 美容師養成施設

TBM 高崎ビューティモード専門学校

〒370-0841 群馬県高崎市栄町13-1 TEL.027-310-2220(代) FAX.027-327-6344



www.chuo.ac.jp/tbm/

CHUO

中央カレッジグループ

美容師
国家試験

84人合格

理容師は5年連続合格率100%

学生生活の集大成となる美容師・理容師国家試験が2月から3月にかけて実施され、本校は美容師国家試験で84人が合格。理容師国家試験では5年連続合格率100%を達成しました。

実技試験は各会場で行われ、筆記試験は3月1日にビエント高崎で実施されました。試験当日、受験生のもとには2年間ともに学んできた仲間たちが激励に訪れ、緊張の中にも笑顔や感動の涙が見られました。試験後には、や

り切った表情を見せる姿が印象的でした。

本校では、日頃から実技指導や国家試験対策に力を入れ、授業や実習、補習、朝練習を通して力を養ってきました。学生一人ひとりの努力と仲間同士で支え合う姿勢が、この成果につながりました。今後も夢の実現に向けて、教職員一同全力でサポートしていきます。

非認知能力育む教育

TBMメソッド

近年、学力やIQといった認知能力に加え、社会性や自律性、粘り強さといった非認知能力の重要性が注目されています。これらは社会や環境の変化に対応し、より良く生きていくために欠かせない力です。

本校では、この非認知能力を効果的に伸ばす教育として「TBMメソッド」と呼ぶ7つのワークに取り組んでいます。従来の詰め込み型学習とは異なり、主体性や協調性、判断力を重視し、自ら考え行動する力の育成に力を入れています。

グループワークでは協働力やコミュニケーション力、リーダーシップを養い、ティーチングワークでは教えることで理解を深めます。さらにゲームワークやセルフワーク、ペアワーク、チームワーク、デジタルワークなど多様な手法を取り入れ、学びやすく着実に成長できる環境を整えています。

変化の激しい社会を柔軟に生き抜き、自らの人生を豊かにするための土台となる非認知能力を伸ばし、社会で必要とされる人材の育成を目指しています。

グループワークの授業風景



卒業生インタビュー

藤井 脩也さん

(国際美容師学科美容師・理容師W取得コース、渋川高校出身)

前向きに挑戦

①早期内定が決まった理由

ガイダンスや職業実践を通して多くのサロンを知ったことが大きいです。自分の強みを明確にして自信を持って挑めたこと、好きなスタイルがはっきりしていたことで軸をぶらさずサロン選びができました。

②学校での2年間

ワインディングに力を入れ、日本一を目標に挑戦しました。支えてくれる人の存在があり、日本一を達成した際は感謝の気持ちでいっぱい。人としても大きく成長できました。

③後輩へのメッセージ

「返事は0.2秒」「頼まれごとは試さ



れごと」という言葉を大切にしています。頼まれたことに全力で応える姿勢が成長やチャンスにつながります。

④今後の目標

圧倒的な技術力とお客様視線を兼ね備えた美容師を目指しています。努力を重ね技術を磨き続けることで、お客様に安心して任せてもらえる美容師になりたいです。

鈴木 爽巴さん

(国際ビューティ学科ブライダルスタイリストコース、KTC屋久島おおぞら高校出身)

日本一を達成

①早期内定が決まった理由

1年生の11月から説明会や企業研究を重ね、志望企業を早く絞り込みました。不合格になっても「自分に合う場所は必ずある」と前向きに挑戦し、4月にP&Gプレステージ合同会社から内定をいただきました。

②学校での2年間

「チューター・ヘアショー出演・パンフレット掲載」を目標に掲げ、すべて達成。ディプロマ試験ではゴールドラインを取得。仲間と切磋琢磨(せっさたくま)した2年間はかけがえのない時間です。



③後輩へのメッセージ

2年間はあっという間。「後でやろう」と思わず、小さな目標を立てて挑戦。困ったときは先生や仲間と相談して頑張ってほしいです。

④今後の目標

人を笑顔にできる大人になることが目標。P&Gプレステージの理念に共感し、SK-IIの美容部員として、多くの人の悩みに寄り添い幸せを届けられる存在を目指します。

エステ、メイクなどの技術競う

2月にディプロマ試験

国際ビューティ学科では2月の3日間、2年間の学びの集大成となるディプロマ試験を実施し、学生たちが培ってきた技術と知識を発揮しました。

初日はエステ・メイク・ネイルの特殊技術試験を実施し、全身リンパマッサージ、デザインメイク、デザインスカulptureの各コースに分かれて専門技術を披露しました。2日目と3日目には、エステ・メイク・ヘアセット・ネイルの4部門によるトータルビューティ技術試験を相モデル形式で行い、制限時間内に施術を完成させました。



学びの集大成となるディプロマ試験

試験前には竹内久校長から激励の言葉が贈られ、学生たちは緊張感の中で試験に臨みました。審査が進むにつれて集中力を高め、日頃の練習の成果を発揮する姿が見られました。

審査の結果、優秀者には卒業式でゴールドラインとシルバーラインの賞状が、最優秀者にはダイヤモンドラインの賞状とトロフィーが贈られました。

卒業生の現在 26

「ジェイエステティック前橋店」
=前橋市

石井 美菜さん (17期生)
(国際美容師学科卒)

後輩の指導にも力

今回紹介する卒業生は、17期生の石井美菜さんです。石井さんは、エステティシャンコースでマッサージの楽しさを実感し、卒業後、ジェイエステティック前橋店に就職、現在はチーフとして後輩の指導にも力を入れています。

石井さんは「お客様のお喜びの声



を聞き、指名をいただけるのがやりがいです」と目を輝かせながら語ってくれました。

今後のさらなるご活躍を、心より応援しております。

学校法人 有坂中央学園 国家資格 愛玩動物看護師 指定養成所・群馬サファリパーク職業教育連携校・北軽井沢地域職業教育連携校

CAN 中央動物看護専門学校

〒371-0844 群馬県前橋市古市町1丁目43-27 TEL. 027-253-7211 FAX. 027-289-4005



www.chuo.ac.jp/can/

CHUO

中央カレッジグループ

公開講座スタート 地域と学校つなぐ

初回は「犬の認知症」

本校は1月15日、地域と学校をつなぐ新たな取り組みとして、市民公開講座を開催しました。犬を飼育している地域住民や卒業生に向けた学びの場として企画されたもので、本校にとって初の試みです。

当日は、教育課程編成委員でもあるACORN獣医神経病クリニック院長の奥野先生を講師に迎え、「犬の認知症について」をテーマに講演が行われました。認知症の検査方法や症状の特徴、日常生活で実践できるケアや運動療法について、具体例を交えながら分かりやすく解説されました。

開催にあたっては、近隣の動物病院やトリミングサロンの協力を得てチラシの掲示・配布を行い、卒業生にも広



初めて開かれた公開講座

く参加を呼びかけました。当日は地域住民や在校生が来場し、会場は熱心に耳を傾ける参加者でにぎわいました。また、サン・メディカ株式会社の協力により「犬の認知機能不全症候群チェックリスト」も配布されました。

参加者からは理解が深まったとの声寄せられました。公開講座は今後も継続する予定です。



国家試験に挑む前に記念撮影する学生

国家試験にチャレンジ

今年も合格多数

動物看護学科の3年生15人は2月15日、愛玩動物看護師国家試験を受験し、多くの合格者を輩出しました。3年間の学びの集大成となる試験に向け、学生たちは計画的に学習を重ねてきました。

対策は3年前期から本格的に始まり、問題集を繰り返し解くことで知識の定着を図りました。また、月1回の

模擬試験を実施し、自身の理解度を確認してきました。授業では模試の振り返りやアクティブラーニングを取り入れ、苦手分野の克服や病気の特徴整理に取り組みました。

後期には模試が月1〜2回に増え、実践力を強化。放課後も仲間と学び合いながら努力を重ね、本番では最後まで真剣に問題に向き合いました。努力の成果を十分に発揮する機会となりました。

2年生がサロン実習 施術から接客まで

動物美容学科2年生は、2月9日から18日までの期間、校内において「校内サロン実習」を実施しました。実習では一般のお客様を迎え、カウンセリングからトリミング施術、仕上げ、接客対応までを学生自身が一貫して担当し、これまでに培った技術と接客力を実践の場で発揮しました。

学生たちは、お客様の要望を丁寧に聞き取りながら、それぞれの犬に適したスタイルを提案し、責任を持って施術に取り組みました。緊張感のある環境の中で一頭一頭と向き合う経験は、技術面に加え、接客力や判断力の向上にもつながりました。実習後には、自身の成長を実感する声も聞かれました。



サロン実習で施術する学生

また、2月20日には2年間の学びの成果を振り返る発表会を開催しました。学生たちは校内サロン実習での取り組みや成長の過程を資料にまとめて発表し、クリッピングの実演も披露し

ました。他学科の学生や教員に向けて、専門性の高さを発信する機会となりました。

今回の取り組みは、日々の学習の成果を実践と発表の両面から確認する機会となりました。

クマ被害の実態を見学

動物飼育学科1年生16人は昨年10月、野生動物管理学の授業の一環で、沼田市の柿農家とリンゴ農家を訪問、クマによる農作物被害の実態を学びました。



クマの爪痕が残るリンゴの木

クマに折られた枝や木に残された爪痕、ふんなどの痕跡を確認。被害の現実に触れ、学生たちは問題の深刻さを実感している様子でした。

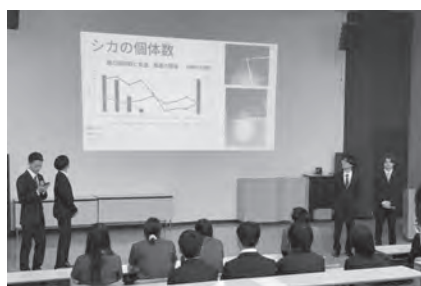
また、わなや電気柵といった被害対策の設備も見学。農家が日々試行錯誤しながら対策に取り組んでいる現状を知り、野生動物と人との共存の難しさについて考える機会となりました。

今年2月には希望した学生が群馬県のわな猟免許を取得しました。現地での学びを具体的な行動へとつなげた取り組みとなりました。今回の実地学習は、地域社会と野生動物の双方を守るために何ができるのかを考える機会となりました。

動物の好みや生息を調査 10チームが研究発表

全学科の1年生23人、10チームが2月、フィールドワーク研究発表会でそれぞれが1年間取り組んできた研究内容を披露しました。

この研究は学生自身が課題を設定し、現場で調査や分析を行う実践型の学習です。テーマ設定から情報収集、考察までを主体的に進めることで、計画性や行動力を養うことを目的としています。



研究の成果を発表する学生

発表では、各学科の専門性を生かした多彩な研究が紹介されました。動物美容学科の「奇妙な染色研究」では、犬のカラーリングで人気の色をアンケ

ート調査し、その結果をもとにカラー剤の調合に取り組みました。動物看護学科の「動物の好き嫌い」では、犬が好む人の特徴や食べ物について調査し、行動との関連性を探りました。動物飼育学科の「赤城山野生動物調査」では、赤城山に繰り返し足を運び、シカやクマなどの野生動物の痕跡や生息状況を継続的に記録しました。

学生たちは発表に緊張しながらも、自らの研究成果を堂々と伝えており、この1年間での成長がうかがえました。今回の発表会は、学びを形にする貴重な機会となりました。

厚生労働大臣指定 柔道整復師養成施設

CSM 中央スポーツ医療専門学校

〒371-0843 前橋市新前橋町21-16 TEL.027-253-1205 FAX.027-253-1230



www.chuo.ac.jp/csm/

CHUO 中央カレッジグループ

柔道整復師国家試験

本校サポートで既卒生も高水準 合格率 92.9%

柔道整復師国家試験が3月1日に実施され、本校の現役生は合格率92.9%（全国平均71.5%）を達成しました。全国的に見ても高水準となる結果であり、日頃の学習の成果が実を結ぶ快挙

となりました。この背景には、内・外教務の連携と担任の永井よりか先生による献身的なサポートがあります。模擬試験の結果を細かく分析し、学生一人ひとりの理

解度や課題に応じた個別指導を実施しました。また、学習面だけでなく精神面のフォローにも力を入れ、最後まで学生を支え続けたことが高い合格率につながりました。

学校を離れることで学習環境が整いにくく、モチベーションの維持が課題となるためです。

しかし、本校の「国家試験合格サポート」システムを利用し、通学を継続した既卒生の合格率は100%を達成しました。継続して学べる環境と手厚い指導体制が成果につながった形です。

一方、柔道整復師国家試験における既卒者の合格率は10～30%と低迷しており、厳しい状況が続いています。

認定実技審査に 全員合格

柔道整復師の認定実技審査が11月に実施され、本校の受験者全員が合格しました。この審査は、3月に行われる柔道整復師国家試験に先立ち、「技術力」を確認する重要な試験です。患者が安心して施術を受けられるよう、安全で適切な対応ができるかどうかの評価されます。



認定実技審査を受ける学生

審査では主に「診察・整復」「固定」「柔道」の3分野が行われます。「診察・整復」では、骨折や脱臼、靭帯損傷など計16種類のけがに対する判断力や処置の適切さが問われます。「固定」では、包帯やテーピングなどを用いて患部を保護する技術が評価され、15種類のけがを対象に実施されます。また「柔道」では、礼法や受け身、投げの形など基礎動作が確認されます。

学生たちは合格に向け、次年度に受験を控えた2年生の協力を得ながら、

放課後などの時間を活用して練習に取り組んできました。日々の積み重ねが実を結び、全員合格という成果につながりました。

今回の結果は、学生一人一人の努力に加え、実践的な教育環境の充実を示すものとなりました。

柔道大会で救護活動

本校は12月、中学生と高校生の柔道大会で救護活動を行いました。県中体連柔道部主催強化練習会では、全国各地から集まった1000人超の選手の外傷処置に当たりました。関東近県高校女子交流大会では試合中に発生したけがへの対応に加え、既存の負傷部位のケア方法を助言するなど、多角的なサポートを実施しました。

現場経験の豊富な卒業生も参加。さまざまな症例を直接経験することができ、学生や教員にとって柔道整復師の役割の重要性を改めて認識する機会となりました。



救護活動に参加した学生ら

おいけ接骨院桐生院

院長 星野 光紀さん

(2022年卒、桐生南高校出身)



▽学生時代の思い出

専門学校での3年間は、知識や技術を学ぶだけでなく、仲間と切磋琢磨（せっさたくま）しながら成長できた大切な時間でした。特に国家試験に向けての勉強は大変でしたが、放課後に教室に残って勉強や実技試験に向けて頑張った日々は、今でも大切な思い出です。

▽仕事のやりがい

現在は接骨院で働き始めて4年目になります。患者様の痛みが和らぎ、笑顔で「ありがとう」と言っていた瞬間に、大きなやりがいを感じています。思い通りにいかないこともあります。学生時代に培った基礎と、今でも続く同期とのつながりが、私の支えになっています。これからも初心を忘れず、より良い施術者を目指して努力していきたいと思っています。

頑張ってます卒業生

中央スポーツ医療専門学校

専科教員 大串紫紀穂さん

(2014年卒、11期生)



▽学生時代の思い出

お互いの仕事や生活を応援し合える仲間ができたことです。仲間と共に実技や勉強に励み国家試験合格を目指して努力した日々、互いに支え合い、分からないところは教え合いながら、同じ目標に向かって取り組んだ経験は、今でも大きな励みになっています。

▽仕事のやりがい

現在の仕事では、学生が懸命に努力する姿を身近で見ることができ、自分の学生時代と重ね合わせながら、その成長を応援できることに大きなやりがいを感じています。とき

には学生に寄り添い、悩みを共に考える場面もありますが、そんなときに感謝の言葉をもらえる瞬間は、この仕事の喜びを実感する大切な時間となっています。

附属接骨院 地域の健康支える拠点

本校附属接骨院＝写真＝は、柔道整復師を目指す学生の実践的な学びの場であると同時に地域に根ざした医療の拠点としての役割も担っています。スポーツや日常生活で発生する骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などの外傷に対し、健康保険を用いた施術を行っているほか、交通事故によるむち打ち症にも対応しています。



また、日常生活の中で蓄積される身体の不調についても相談を受け付けており、症状が軽いうちに適切なケアを行うことで、悪化の予防や回復の促進につなげています。

学生は施術技術に加え、患者との信頼関係の築き方や接遇、説明力について、現場で習得しています。地域住民が安心して利用できる身近な接骨院として、同院は医療と教育の両面から地域の健康を支える役割を果たしています。

学校法人 有坂中央学園 高等学校卒業と専門知識・技能の取得

CHS 中央高等専修学校

前橋・〒371-0842 群馬県前橋市下石倉町31-20 TEL.027-253-5596(代) FAX.027-280-5270

クラーク記念国際高等学校連携校

<https://www.chuo.ac.jp/chs/>



CHUO
中央カレッジグループ

28人が胸張り卒業 仲間や先生に励まされ

本校の第27回卒業式が3月6日、群馬県公社総合ビル多目的ホールで行われました。28人の卒業生が学び舎を巣立ち、それぞれの進路へと歩み出しました。

式には吉川真由美前橋市教育長（当時）をはじめ多くの来賓や保護者らが参列し、会場は厳粛でありながら温かな雰囲気に包まれました。

式の冒頭では、在学中に優秀な成績を収めた生徒や高資格取得者、皆勤を達成した生徒の表彰が行われ、これまでの努力がたたえられました。続く卒業証書授与では、担任が卒業生一人一人の名前を読み上げ、学校長から卒業証書が手渡されました。

在校生代表の森菜花子さんは送辞

で、学校を支えてきた卒業生への感謝を述べ、「先輩方が築き守ってきた伝統と意思を受け継ぎ、その意思を継承してさらなる高みへつないでいきます」と力強く語りました。

答辞では卒業生の塚田陽太さんが高校生活を振り返り、「私の世界に光が差し込んだのは仲間の存在でした」と述べました。放課後に友人と軽食を取りながら語り合った時間や、日が暮れるまで夢中でボールを追いかけたバレーボール、励まし合いながら取り組んだ簿記の勉強など、何気ない日常がかけがえのない思い出になったと語りました。「クラスメートが笑うと、つられて自分も笑っている。そんな些細な出来事が、人生が変わるくらいの奇跡



答辞を述べる塚田さん（右）と大澤さん

でした」と、仲間への感謝を伝えました。

続く答辞で大澤寧々花さんは、先生への感謝の思いを語りました。入学当初は先生という存在に苦手意識があったものの、友人関係や家族のことで悩んだ際に親身に話を聞いてもらい、「あなたの居場所はここにある」という言葉に励まされたといいます。その言葉

に支えられ、学校生活が楽しくなり、欠かさず登校できるようになったと振り返りました。

卒業生たちは仲間や先生との思い出を胸に、それぞれの新たな道へと歩み始めます。学び舎で過ごした日々は、これからの人生を支える大きな力となることでしょう。

先輩の意地が光る



玉入れや綱引きで盛り上がった体育祭

体育祭で全チームが熱戦

前橋市の王山運動場で10月、本校の体育祭が開催され、秋晴れの空のもと、会場には生徒や保護者の元気な声が響き渡りました。

体育祭は1年生チーム、2年生チーム、3年生チーム、ベーシックチームの4チームによる対抗戦で行われました。各チームはおそろいのチームTシャツを身にまとい、気持ちをひとつにして競技に臨みました。

徒競走や障害物競走、綱引き、大縄跳び、玉入れ、棒取り、台風の目、チーム対抗リレーなど、多彩な競技が実施されました。

保護者競技も行われ、生徒と保護者が一体となって応援し合う姿が印象的でした。競技が進むにつれ、チームの結束力も高まり、会場は大いに盛り上がりました。

接戦の末、見事優勝を果たしたのは3年生チームです。最後まで諦めずに挑む姿からは、先輩としての意地と頼

もしさが感じられました。学年を越えて交流を深める、思い出に残る一日となりました。

「感謝祭」で交流 盛大に模擬店やビンゴ

学校行事の「感謝祭」が11月、本校で開催されました。感謝祭は、日頃支えてくださっている方々への感謝の気持ちを大切に、食事や交流を通して互いの思いを分かち合うことを目的とした行事です。当日は多くの生徒や保護者が参加し、校内は温かな雰囲気に包まれました。

生徒と保護者がそれぞれ模擬店を運営しました。各クラスやコースが工夫したメニューを用意し、フレンチトーストやチョコバナナ、団子、餃子、たこ焼き、お好み焼きが並びました。さらにフルーツポンチやフランクフル

ト、保護者による豚汁も振る舞われ、来場者は出来立ての料理を味わいながら交流を深めました。

開会式では書道パフォーマンスが披露され、力強い筆遣いに大きな拍手が送られました。会場ではeスポーツ大会や腕相撲大会、ギター演奏会、感謝の英文・作文発表など多彩な催しが行われました。ビンゴ大会も盛り上がり、思い出深い一日となりました。



たこ焼きづくりに励む生徒たち



老人ホームで門松作製

作り上げた門松の前で記念撮影する生徒たち

IACメンバーが地域交流

本校のインターアクトクラブ（IAC）のメンバーは、伝統文化に触れる活動の一環として、毎年年末に門松づくりに取り組んでいます。昨年度は12月25日、前橋市の特別養護老人ホーム「春日の里」を訪問し、

入所者の方々の前で門松作製を行いました。

当日は、竹をのこぎりで切りそろえて形を整え、わら縄で縛り上げながら土台を作りました。その後、松飾りなどをバランスよく配置し、正月を迎えるにふさわしい一對の門松を完成させました。慣れない作業に

苦戦する場面もありましたが、生徒たちは互いに協力しながら丁寧に仕上げていきました。

作業の合間には、入所者の方々と言葉を交わし、生徒と入所者の方々が笑顔で交流する場面も多く見られ、施設内には和やかな雰囲気が広がっていました。

完成した門松は施設の玄関に飾っていただき、訪れる人々を温かく迎える正月飾りとなりました。入所者の方々に少しでも楽しい時間を届けることができていると、生徒たちにとっても大きな喜びです。

今回の活動は、地域とのつながりを実感するとともに、日本の伝統文化を改めて学ぶ貴重な機会となりました。生徒たちにとっても、心に残るボランティア活動となりました。



〒371-0844 群馬県前橋市古市町1丁目49-3 TEL.027-256-7200 FAX.027-256-7201



www.chuo-gaigo.com



頼れる新戦力

講師2人が抱負語る

中央外語学院に2人の講師が加わりました。英語教育を通じて「日本の未来を形作りたい」と願うジュビー・アン・タオ先生と、ビジネスやITの経験があり、コミュニケーションの楽しさを大切にしているシーラ・メイ・オオツカ先生です。2人に抱負を聞きました。

ジュビー・アン・タオさん
(フィリピン出身)

世界とつながる力育てる

フィリピンで育った私は、子どもの頃、空飛ぶ車のような未来の世界に憧れていました。20年後、日本に移り住み、この美しい国に出会ったことで、私の未来への夢は大きく変わりました。今、私が思い描く未来は、世界中の人々が互いにつながり、理解し合える社会です。そしてその中心で、日本が国際社会の架け橋となる姿を見たい



日本が国際社会の架け橋となる姿が見たいと話すジュビーさん

と願っています。

本学院で英語教師として働く機会をいただき、幼稚園児から小学生、大学生、そしてオンラインで学ぶ大人の方々まで、幅広い世代の皆さんに英語を教えています。日々の授業を通して、

英語が世界とつながるための大切な力であることを実感しています。

特に私は、英語の発音やスピーチ、オーラルコミュニケーションの指導に強い関心を持っています。発音は相手に思いを正しく伝えるための重要な要素だからです。今後は、発音やスピーチをさらに学べる環境づくりにも取り組んでいきたいと考えています。

これからも、英語教育を通して皆さんが世界とつながる力を育てるお手伝いをしていきたいと思っています。どうぞこれからも一緒に英語を学び続けていきましょう。

シーラ・メイ・オオツカさん
(フィリピン出身)

間違えは成長のチャンス

フィリピンの首都マニラ出身のシーラ・メイ・オオツカです。現在は前橋市に住み、本学院で英語教師として勤務しています。フィリピン・スクール・オブ・ビジネス・アドミニストレーションで経営情報システムを専攻し、経営学の学士号を取得しました。また、International TEFL/TESOLで英語教授法 (TEFL/TESOL) を学び、英語教育の専門的な知識を身につけました。

授業では、英語を「楽しく、安心して学べる環境」であることを大切に



楽しく安心して学べる環境が大切と話すシーラさん

ています。歌やストーリー、ゲーム、アクティビティ、自由会話などを通して、話す、読む、聞く、書く、の4つの技能をバランスよく伸ばしていきます。学習の過程で間違えることは自然なことであり、むしろ成長のチャンスだと考えています。

私の目標は、生徒の皆さんが自信を持って英語でコミュニケーションできるようサポートすること、そして英語が世界とつながる大切なツールであることを実感してもらうことです。英語学習は完璧である必要はありません。挑戦するたびに力は確実に伸びています。自分の可能性を信じ、これからも一緒に学び続けていきましょう。

資格の学校 TAC 群馬校

お申し込みお問い合わせは資格の学校TAC
〒371-0805 群馬県前橋市南町3-14-1 TEL 027-226-1823 FAX 027-243-5300

2025年度
試験

公務員、吉報相次ぐ 税理士科目は4人合格

2025年度の試験結果が出そろい、多くの受講生から喜びの報告が寄せられました。税理士試験では、簿記論1人、財務諸表論3人が科目合格を果たしました。社会保険労務士試験では2人、宅地建物取引士試験では1人が合格しました。

公務員試験では、国家一般職、国税専門官、労働基準監督官、東京都庁、群馬県庁、市役所では県内が前橋市、高崎市、太田市、伊勢崎市、渋川市など、県外でも仙台市、横浜市、平塚市、

久喜市などで成果を挙げています。公安系では、警視庁、群馬県警で最終合格を勝ち取りました。

合格された皆さん、おめでとうございます。

合格者データ

(数字は人数)

- 税理士【科目合格】
簿記論1、財務諸表論3
- 社会保険労務士2
- 宅建士1

務員(地方上級・国家一般職) / 理系公務員(技術職) / 警察官・消防官
【不動産関係】
不動産鑑定士 / 宅地建物取引士 / マンション管理士 / 管理業務主任者
【情報処理・パソコン関係】
ITパスポート / 基本情報技術者

TAC群馬校取り扱い講座

【会計・経営・労務関係】
公認会計士 / 税理士 / 簿記検定 / 社会保険労務士 / 建設業経理士 / 中小企業診断士 / FP / 証券アナリスト
【法律・公務員関係】
行政書士 / ビジネス実務法務検定 / 公

- 公務員試験
国家一般職(行政) 3
国家一般職(土木) 1
国税専門官2
労働基準監督官1
東京都庁(土木) 1、群馬県庁(行政) 2、前橋市1、高崎市2、太田市1、伊勢崎市1、渋川市1、仙台市(土木) 1、横浜市(土木) 1、平塚市1、久喜市1、警視庁1、群馬県警1

合格者からのアドバイス

自分に合った方法を継続
M・Hさん(2025年度 労働基準監督官合格)
〈これから受験する人へ〉
焦らず、自分が積み重ねてきた努力を信じるのが大切だと思います。学習計画を立て、自分に合った方法で継続すれば結果につながります。不安を感じることもありますが、将来の自分をイメージし、必ず合格するという気持ちを持ち続けて頑張ってください。

使える時間の把握を
M・Kさん(2025年度 国税専門官合格)
〈これから受験する人へ〉
受験生それぞれに状況は異なります

資格・検定紹介

「二級ボイラー技士」

二級ボイラー技士は、ボイラー設備を安全に運転・管理するために必要な国家資格です。ボイラーは高温・高圧の蒸気や温水を扱うため、労働安全衛生法により有資格者の配置が義務付けられています。

〈主な活躍分野〉

- ・ビル管理・ビルメンテナンス業界
 - ・病院、ホテルなどの大型施設
 - ・蒸気を使用する工場の生産ライン
- 暖房や給湯、空調、消毒など幅広い用途があり、安定したニーズのある資格です。

が、自分の使える時間を把握し、学習を継続することが重要です。落ち着いて現状を分析し、本校を活用しながら志望先合格を目指してください。

お得な講座情報

TAC群馬校で受講相談をしていたら、入会金10,000円免除、受講料5% OFFとなります。ぜひお気軽にご来校ください。